

エコトピア

ecotopia

27

「親子エコ活動」 ～カワバタモロコがやってくる♪2～

DATA
彦根市立 若葉小学校
彦根市蓮台寺町180
☎ 0749-25-3545

株式会社ブリヂストン彦根工場では、琵琶湖の生態系を取り戻す活動として、三重大学研究員の鈴木先生とともに、淡水魚のカワバタモロコの繁殖に取り組んでおられます。カワバタモロコは、昔は琵琶湖や内湖に多く生息していましたが、農薬の使用や琵琶湖の環境悪化、外来生物などの流入による生態系の変化によって数が激減し、絶滅危惧種に指定されています。



彦P連ではこの取組を学校・園にも広げられないかとお知らせしたところ、若葉小学校の六年生が「ぜひやりたい!」と手を挙げていただき、11月20日(金)のお昼休みに若葉小学校内にある「いこいの池」にカワバタモロコ 30匹(オス・メス 15匹ずつ)を放流しました。

人間は、多様な資源や生きものの中から利用できるものを探し、文明を築いてきました。人間が生活できる持続可能な地球環境にするためには、生物の多様性を守ることも大切なことです。子どもたちには、カワバタモロコの飼育を通して、生きものを大切にすること、食べ物を無駄にしないことなど、いのちの恵みに感謝できるようになってほしいと考えています。

環境フォーラム湖東 滋賀県の「マザー・レイク 21 計画」に基づき、計画を具体的に進めるために住民・事業者・学校・行政によって設立された湖東地域の地域フォーラム。環境意識の向上と会員のネットワークを構築し、各種活動を展開して環境問題に対する理解を深めるとともに、湖東地域からよりよい環境を創りだしていくために活動しています。

編集後記

■農産普及課の方へのインタビューを通して、行政として農家の様々なニーズにあわせた業務を行なっていることが分かりました。インタビューでは自分の知識不足で質問がおぼつかない場面もありましたが、的確な応答のおかげで質疑内容を参考に記事を作成することができました。関係者のみなさま、ありがとうございます。(M.N)

環境フォーラム湖東 新規会員募集中!

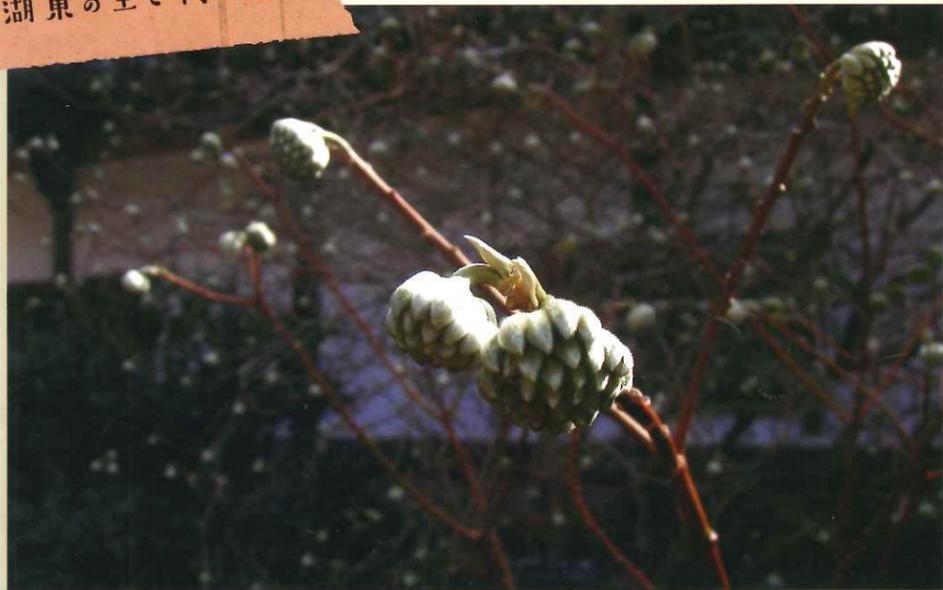
ちょっと環境の勉強をしてみたいという方、すでに環境に関する活動をされている方や企業・団体など、どなたでもご参加いただけます。右記事事務局までお気軽にお問い合わせください。詳細をご連絡いたします。

環境フォーラム湖東 情報交流誌
エコトピア 第27号
平成28年3月

発行：環境フォーラム湖東
連絡先：〒522-0071
彦根市元町4-1
滋賀県湖東環境事務所内
電話：0749-27-2255
FAX：0749-27-1688
URL：<http://www.f-koto.org/>
<http://www.facebook.com/f.koto.org>
E-MAIL：info@f-koto.org

◎「エコトピア」は年2回、春と秋発行。湖東環境事務所ほかで配布しています。バックナンバーはホームページでご覧頂けます。

Photo Gallery 湖東の生き物の仲間



ミツマタ

ジンチョウゲ科

中国原産の落葉低木、渡来した時期は明らかでないが、本州以南の各地で栽培され一部が野生化している。名前のとおり枝が三本づつに分かれ出る。花期は3～4月、高さ1～2mになり葉は互生し、長さ5～8cmの葉柄がある。

葉の展開に先立ち蜂の巣のようなユニークな形の黄色い花を多数つける。コウゾ、ガンビと共に製紙用の原料として現在も紙幣の一部で使われるが我々が目にするのは観賞用のものが多い。野生化のものを見るには鈴鹿山系の落葉樹林帯、多賀高取山、霊仙山あたりの山裾である。

ATAAD
彦根市元町4-1 (湖東合同庁舎2階)
☎ 0749-27-2213
<http://www.pref.shiga.lg.jp/hikone-pbo/nogyo/>

滋賀県湖東農業農村振興事務所農産普及課
奥の農政水産部の地方機関であり、湖東地域(1市4町)を管轄する。農業の担い手育成や環境に配慮した農産物の生産、地産地消や食の安全・安心の推進、農産物の生産振興や6次産業化の推進などの活動を行っている。また、琵琶湖の環境保全のために宇賀川水系の水質改善などにも取り組んでいる。

「エコトピア」は湖東地域の環境活動団体を紹介するコーナー。今回は、奥の農政水産部の地方機関「滋賀県湖東農業農村振興事務所農産普及課」の井上孝之さん、喜多優香子さんにお話を伺いました。

■学校給食への地元食材の導入

農産普及課では、地産地消を推進する取り組みとして、学校給食に地元産の農産物の供給量を増やす取り組みを、市町やJAと協力して行っています。導入するにあたって消費量や配送、コストの面で課題が多いですが、生産者や関係する方々の積極的な取り組み・協力によって実施されている現状があるそうです。実際に地産地消に取り組んでいる事例では、生産者の方々が協力して学校に納品しているとのことでした。学校給食以外への出荷でも、地産地消の実施にあたって様々な課題があると思いますが、しかし今回のお話を通じて、生産者や消費者が積極的に地産地消に取り組むことが地産地消を促すことに繋がると分かりました。

■これからも農業を続けていくために

今までは、集落の中の農家や営農組織等が、農地が耕作放棄地とならないよう調整することで、農業を継続して行うことができていました。しかし、高齢化が進んだことで、中山間地域などの耕作条件が悪い地域などでは、農業の担い手不足等により農業を継続することが難しくなっています。かつては集落内で解決できた問題も、現在では問題解決ができずに耕作放棄地を抱える集落も、地域により発生している状態になっています。

そこで、農産普及課では、耕作放棄地を作らないために市町や農協と協力し、担い手農業者がいない集落で、将来的にどのように農業を継続させていきたいかを農家の方々に考えていただく場を設け、その解決に向かって一緒に取り組んでいます。

農業が、地域によってこのように危機的な状況にあることを知り、農業に持続性をもたせるための取り組みが必要なのだと強く感じました。そのような取り組みを行う役割を担っているのが農産普及課の方々だと思います。

インフォメーション：長谷美智留
[滋賀県立大学リサーチセンター] <http://guricon.net/>



話を伺っている中で、業務内容が多岐にわたっていることが印象的でした。様々な業務のなかでも、生産過程で環境に配慮した農作物を県が認証する「環境こだわり農産物」や近江米の新品種「みずかみ」の栽培推進は、主な業務の一つとなっているそうです。推進するにあたって技術的な指導が重要であるということを知りました。環境への負荷を削減するために最小限の化学肥料で作物を育てたり、新しく開発された品種を栽培したりすることを可能にする技術的な進歩によって現在の農業は成り立っているのだと感じました。

湖東農業農村振興事務所農産普及課は、滋賀県内6地域にある農産普及課のひとつです。普及指導担当と農業推進担当の2つに分かれており、幅広い業務を分担して行っています。

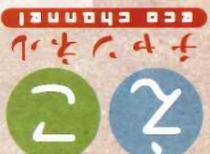
普及指導担当は担い手育成や栽培技術指導、農薬の安全使用の指導など専門的な業務を行っています。農業推進担当は国や県の事業などの事務を主にしています。農業体験は小・中学生を対象に行われており、学校の依頼や農産普及課の提案によって実施されています。

話を伺っている中で、業務内容が多岐にわたっていることが印象的でした。様々な業務のなかでも、生産過程で環境に配慮した農作物を県が認証する「環境こだわり農産物」や近江米の新品種「みずかみ」の栽培推進は、主な業務の一つとなっているそうです。推進するにあたって技術的な指導が重要であるということを知りました。環境への負荷を削減するために最小限の化学肥料で作物を育てたり、新しく開発された品種を栽培したりすることを可能にする技術的な進歩によって現在の農業は成り立っているのだと感じました。

農産普及課の概要

湖東農業農村振興事務所農産普及課

「様々な視点から農業を支える」湖東農業農村振興事務所



湖東地域のトンボ調査結果の報告

トンボ研究会 澤田弘行

平成 26 年、平成 27 年の 2 カ年にわたり環境フォーラム湖東が主催して、湖東地域のトンボ調査を一齐に行いました。観察会も 2 カ年で 6 回、そして一般参加の調査員がメールにて事務局に調査報告を行い、私が同定をしてその結果をまとめることで最終報告を行うこととなりました

平成 26 度観察会

- 6月21日 多賀町栗栖（芹川）、同富の尾（溜池）参加者（37人）
- 7月20日 彦根市三津屋町（曾根沼）参加者（38人）
- 9月23日 愛荘町斧磨（集落周辺の棚田）参加者（41人）

平成 27 度観察会

- 6月20日 多賀町四手（大溜）、甲良町正楽寺（海東、西蓮溜）参加者（26人）
 - 7月5日 彦根市三津屋町（曾根沼）参加者（26人）
 - 9月26日 愛荘町斧磨（集落周辺の棚田）参加者（22人）
- 観察会の述べ参加人数 190人
観察会及び個人の報告数 244件 トンボの種類 40種

この中には滋賀県において、準絶滅危惧種であるオオサカサナエも含まれています。平成 11 年 8 月琵琶湖博物館が蜻蛉研究会と共同で平成 5 年から平成 9 年までの約 5 年余りの歳月をかけ滋賀県内のトンボ調査報告書「滋賀県のトンボ」を発行しました。私もこの調査に途中から参加しました。滋賀県のトンボ 98 種類が報告確認されています。その後 2 種類が確認され合計 100 種類の報告が滋賀県での最終報告となっています。その後平成 28 年に琵琶湖博物館と主として滋賀県内のトンボ愛好家たちと共同で調査を実施し前回との比較を 18 年後の報告書が執筆されています。調査結果では、絶滅したトンボがベッコウトンボ、オオキトンボ、コバネアオイトトンボの 3 種類が報告されています。その他に激減したトンボも多く報告されています。

その中で環境フォーラム湖東が 2 カ年にかけて調査した結果は上記のとおりでしたが、貴重な調査結果と考えます。湖東地域のトンボは種類も多く、子供たちを含め多くの人が関心をもった仲間ができたことにトンボにかかわってきた一人として大変うれしく思っています。

表彰者

- 優秀賞 高尾 健翔さん
鶴川 颯太さん
吉澄 紗良さん
下田 篤男さん



湖東地域環境シンポジウムを開催しました

今年度のシンポジウムも、昨年度に引き続き「ひこねエコフェスタ」と合同で、滋賀県立大学の学園祭「湖風祭」において、11月14日（土）、15日（日）の2日間にわたり開催しました。

14日は残念ながら雨天となり、屋内での開催となりました。湖東地域のトンボ調査の表彰式を行った後、トンボ研究会 澤田弘行氏による講演会を開催し、滋賀県のトンボについてのお話や、子ども達が報告した湖東地域トンボ調査の写真の紹介など、興味深い内容でご講演いただきました。

15日は好天に恵まれ、屋外の展示ブースには多くの方が来場されました。クイズラリーの答えを求めて、展示物やトンボ調査の写真をじっくり見ていただいたり、また質問をしていただいたり、終日賑やかな展示ブースとなりました。こういった何気ない交流が、環境フォーラム湖東の活動を知っていただくきっかけとなり、活動の輪が広がっていくことを願います。

講演会 「滋賀県のトンボ事情 2」

講師 トンボ研究会 澤田弘行氏

パネルを使ってトンボの特徴や習性などをお話いただき、また、昨年度と今年度に行った「湖東地域のトンボ調査」で報告された写真を紹介していただきました。

湖東の環境活動展

展示期間：平成 27 年 12 月 8 日（火）～ 12 月 14 日（月）

展示場所：ピバシティ彦根 1 階センターモール

展示団体：NPO 芹川、彦根城オニバスプロジェクト、泉エコクラブ、滋賀自然環境保全・学習ネットワーク湖東フィールドグループ、愛のまちエコライフ、滋賀県立大学グリーンコンシューマーサークル、株式会社ブリヂストン彦根工場、彦根市環境保全指導員連絡会議、愛荘町さわやかまちづくり推進会議、湖東定住自立圏推進協議会環境・ごみ処理部会、マザーレイクフォーラム、環境フォーラム湖東



環境フォーラム湖東交流会

「エコサロン18」実施報告

「エコサロン」は環境フォーラム湖東の交流会。
詳しくはHP、チラシにて！
<http://www.f-koto.org/>

今回は、滋賀大学の学生自主企画団体「滋賀エコプロジェクト」から、代表の長岡さん、副代表の高杭さんにお越しいただきました。同団体は、2007年にその前身である BDF（Bio Diesel Fuel）バスプロジェクトが発足して以来、「グローバルに考え、ローカルに活動する」ことをモットーに、学内外での活動に取り組まれています。

活動の柱は「エコ活動」と「地域貢献活動」の 2 本立てです。「エコ活動」では、発足当初から引き継がれている廃油回収や、講義資料の余剰紙の回収等、地道な活動を続けられています。しかし、人手不足や周知不足により、安定して回収量が得られない等の課題に頭を悩ませているとお話がありました。これに対して、参加者の方から、「地域の方が集まる公民館でも廃油回収を呼び掛けてはどうか」「廃油石鹸作りをやると思ったら、ぜひうちに見学に来たい」等、さまざまな提案がなされ、会場は大いに盛り上がりしました。

また、特に平成 27 年度に力を入れてきたという「地域貢献活動」では、七夕祭りや七曲りフェスタ等、地域のイベントに参加し、廃油を利用したエコキャンドルの配布や、地域の方と協力して完成したワークショップの展示等が行われました。エコの観点にプラスして、地域とのつながりを重視したこれらの取組は、新聞にも取り上げられ、大きな達成感が得られたと語ってくれました。

今後は、これまでの取組を継続しつつ、新しいことにもチャレンジしたいとの意気込みで、湖南流域環境保全協議会の参加者からは「エコサロンが定期的で開催され、継続していることは素晴らしい。若い力を巻き込むことが大事だと改めて感じた」と感嘆の声が挙がっていました。



日時 平成 28 年 1 月 22 日（金）
場所 SLOW 2F
話題提供 滋賀大学
滋賀エコプロジェクト

湖東の水環境調査

環境フォーラム湖東では「身近な水環境の全国一斉調査」に参加していますが、それにあわせて特定の地点を定め「湖東の水環境調査」を実施しています。そこでは溶存酸素（DO）も測っていて、国土交通省近畿技術事務所の「☆型簡易水質調査シート」を用いて評価しています。基準日は 2015 年 6 月 7 日でした。

- 矢倉川
河口で COD が高いのは支流の小野川によるものと思われる。
- 猿ヶ瀬川・港湾
河口で COD が高いのは東北部浄化センターの排水の影響でしょうか。
- 芹川
上流のきれいな水がそのまま下流に流れ下っています。
- 平田川
投棄物が多く見られますが、水質の数値は良好と判定されます。
- 犬上川
上流のきれいな水が下流まで維持されています。
- 宇曾川
中流で気になる数値がありますが、河口ではまずまずの結果です。
- 柳川漁港・宇曾川漁港
共にびわ湖並みの水質でした
- 野田沼・曾根沼・神上沼
曾根沼の COD が高く、神上沼の溶存酸素が少なかったです。
- 四手大池
多賀町の工業団地の南、小高い所にある池で水質はきれいでした。

